

1. 案件の概要

(1) 案件名

(和文) 平成27年度ラオス国別研修「理数科分野の教科書及び教員指導書の改善」

(英文) Improvement of Quality of Textbook and Teachers' Manuals on Science and Mathematics for Primary Education

(2) 本学での研修期間 平成27年4月21日～平成28年3月18日

(3) 研修員数 1人

(4) 国立大学法人 鳴門教育大学 研修コースリーダー

寺島 幸生, 田村 和之, 香西 武

2. 研修内容

(1) 案件目標 (研修の目的)

(ア) 研修員が、自国の初等理科教育の現状と課題について、学力調査の結果に基づいて分析する。

(イ) 研修員が、理科のカリキュラムや単元構成について、ラオスと日本の違いを分析しながら、自国の教科書及び教師用指導書の改善に資する具体的な方策を提案する。

(ウ) 研修員が、初等理科教育の植物分野の観察・実験に関して、自国の学校における効果的な学習活動とその指導法を考案する。

(2) 研修のカリキュラム構成と日程表

案件目標 (ア)～(ウ) に沿って、主な研修内容を (ア)「ラオスの生徒の理科の学力調査とその結果分析」、(イ)「ラオスと日本の初等理科教育のカリキュラムや教科書の単元構成の比較」、(ウ)「観察・実験を行う理科の学習活動とその指導法」の3部構成とし、以下の日程で行われた。

時期	研修概要	研修分類
事前	TIMSS2011の生物分野の問題を用いた学力調査の実施	(ア)
4月	研修計画の立案	(ア) (イ) (ウ)
5月	学力調査結果の集計・分析	(ア)
6月	自国の理科教育の現状について国際会議 (ICET2015) で報告	(ア) (イ)
7月	日本の小中学校を訪問し理科授業を観察	(ウ)
8月	植物に関する観察・実験の実施	(ウ)
9月	観察・実験を取り入れた効果的な学習活動とその指導法の考案	(ウ)

10月	ラオスの初等理科教育のカリキュラムや教科書の単元構成について分析（短期研修）	（イ）
11月	自国の学校で実践する理科の授業に用いる生徒用ワークシートなどの教材を作製	（ウ）
12月	日本理科教育学会四国支部大会（高知）、本学国際教育コースのセミナー、ラオスでの国際会議において研修成果を報告	（ア）（イ） （ウ）
1月	ラオスの中学生の理科の学習態度等に関する意識調査の結果分析（分析中）	（ア）
2月	研修成果のまとめ	（ア）（イ） （ウ）
3月	最終報告	（ア）（イ） （ウ）

※その他、本学の各種講義や国際研修、JICAや本学国際交流係主催の交流活動等に参加